

介護情報の自動登録を実現させるためのデバイス制作

取組企業

JPC株式会社
担当者 代表取締役 三瓶 哲也
TEL : 029-352-1113
HP : https://j-pc.jp/

共同研究 の相手

茨城大学 工学部
担当者 教授 武田 茂樹
TEL : 0294-38-7049
研究室HP :

< 背景 >

JPC株式会社にて開発したデイサービス向け業務支援ソフト「**カイサポ**」は、介護業務のIT化を目指し、現在、複数の介護施設で利用されている。施設利用者の介護情報は電子化され、クラウドサーバ経由で情報共有が可能となった。また、タブレット等の端末にて簡単に介護情報を登録することで、利用実績が集計され、介護保険請求処理や各種書類の作成を自動的に行うことができる。

「カイサポ」は介護現場で働く方々の業務に不可欠なソフトとなってきたが、現状の機能は従来行っていた手作業の機械化に過ぎず、抜本的な業務改革には、さらなる課題の克服が必要である。今回、現場課題の再調査を行い、介護記録の入力自体を無くすことに挑戦した。介護記録の測定と登録が自動化できれば、入力作業からも解放され、さらなる業務負担の軽減に加え、介護への専念が可能となる。

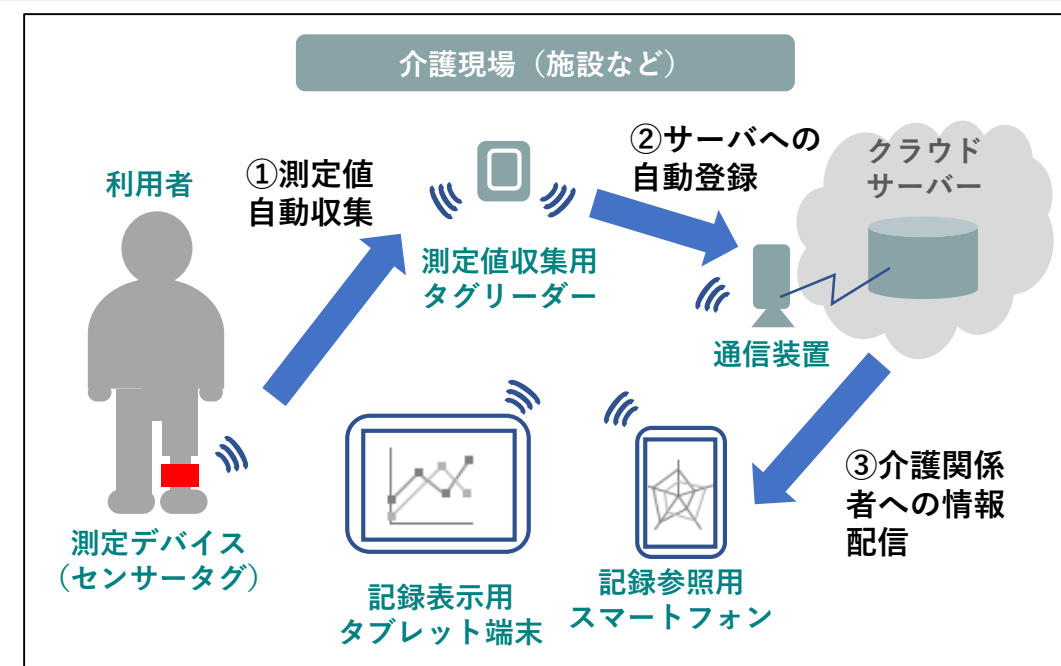
< 研究開発プロセス >

①弊社での実施内容

- ・ 介護現場における課題やニーズについての再確認
- ・ 課題解決に向けた対策検討（利用者の負担軽減対策など）
- ・ 「カイサポ」とのデータ連携機能の設計と開発

②研究機関での実施内容

- ・ バイタル等の非接触自動測定技術の動向調査
- ・ 今回の方法にて自動取得できる介護情報の見極め
- ・ デバイスの種類や形状、素材、取得情報の精度などの検証
- ・ デバイスのプロトタイプ（試作品）製作



介護情報の自動登録のイメージ

介護情報の自動登録を実現させるためのデバイス制作

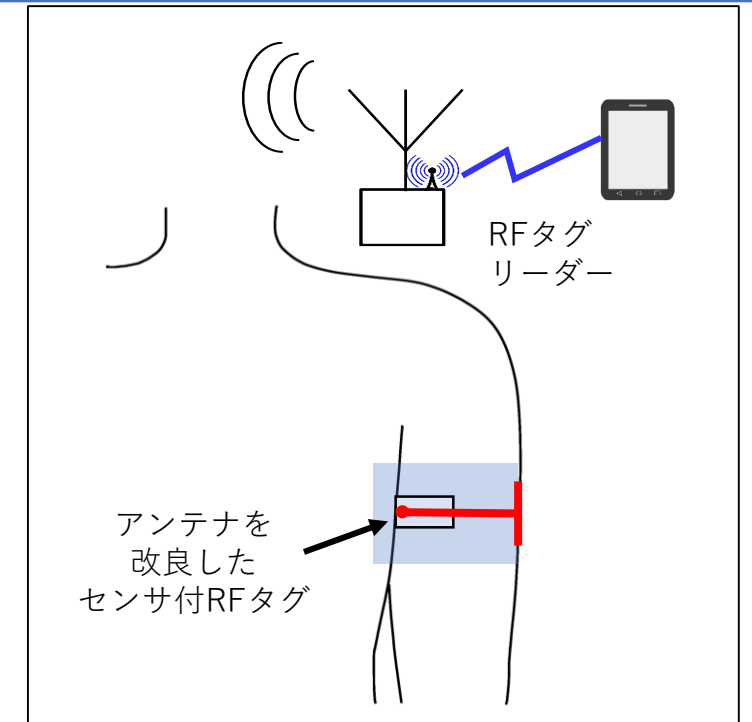
< 共同研究機関との取組み >

① 新たな測定デバイス開発

対象者の体温や位置を自動測定し記録するウェアラブルデバイスの試作品を製作することができた。茨城大学様との検討の結果、デバイスには、センサー付RFタグを活用し、体温や位置の自動測定が可能となる見通しを得た。

② 試作品の評価

デバイスの精度や性能、人体への影響などの評価を連携して行い、介護現場での要件をクリアできる見込みを得た。茨城大学様の多大なるご支援により、実用化に向けた道筋をつけることができた。



試作デバイスのイメージ

< 研究開発結果 >

① 介護業界への影響

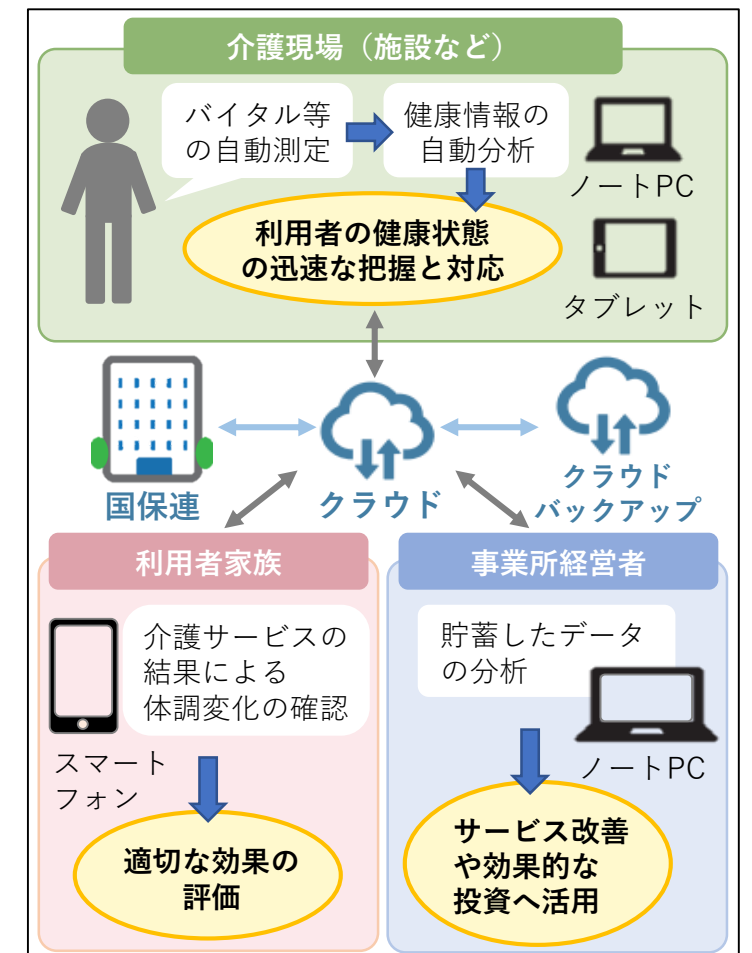
今回の仕組みは、現場の課題を抜本的に解決し、併せて全てのニーズを総合的に満たす新手法となり、現場におけるDXの後押しに貢献できる。

② 介護サービス利用者への効果

自らの健康状態を発信できない方や、突然の体調急変をされる方などに対し、今回の仕組みは、健康状態が数値化されることによる、問題発生の早期検知や介護計画内容の見直し等の新たな価値を提供できる。

③ 自社製品への効果

「カイサポ」の新たな提供価値が加わることで、製品の優位性が高まり、導入顧客の増加が見込まれる。今後の製品化をめざして取り組んでいく。また、自社だけで最終的な製品化をめざすことは難しく、引き続き、県内の研究機関や関連企業と連携しながら、地域産業のさらなる活性化にも貢献していきたい。



ソリューション全体像